

## 企画から製造までワンストップソリューションが強み 高度なスキルと迅速な対応力で顧客の課題を解決

このほどJASAに入会いただいた株式会社アトム技研。神奈川県  
湘南地域に位置し、住みたい街としても人気の高い藤沢市を拠点  
に、組み込み機器開発をベースに多彩な分野で技術力を発揮。企画か  
ら製造まで一気通貫した対応で顧客の課題を解決してきた。そんな  
同社を訪ね話をうかがった。



代表取締役 西村 俊史氏(左)  
設計部 西村 俊諒氏

### 製品仕様を固める 重要フェーズから関わる

創業から40周年を迎えた。当時から電子  
機器の開発を請け負うエンジニアリング企  
業として展開している。事業内容は、電子機  
器のハードウェア開発、PCB設計・基板アー  
トワーク設計、ソフトウェア開発、電気設計・  
メカトロニクス開発、機構設計、EMS(電子  
機器製造受託)と多彩だ。

開発分野も幅広い。鉄道・自動車用シ  
ミュレーション装置や駐車場システム、発電  
エンジン制御装置など産業機器がメインと  
なるが、宇宙・航空関連機器、教育用の電  
子教具や車載系などの民生機器といった  
多彩な分野で実績を上げている。

企画から設計開発、製造、品質管理に至  
るまで一貫して対応する“ワンストップソ  
リューション”が特徴だ。「回路設計、機構  
設計、ファームウェアなど社内で開発でき  
るので、一気通貫でおこなっています」と代表  
取締役(CEO)の西村俊史氏。開発をワン  
ストップでおこなう会社はあるだろうが、ア  
トム技研の強みは製品仕様のプロセスから関  
わることにある。製品化の最重要な初期段  
階であり、顧客ニーズを技術的な要件に落

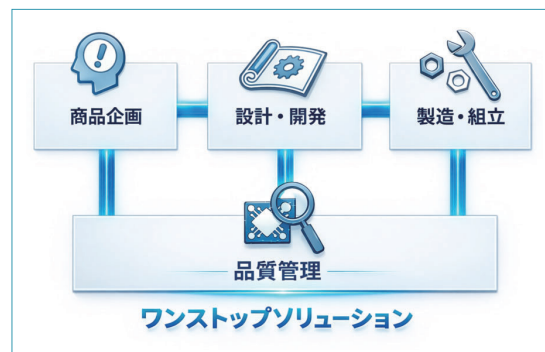
とし込むフェーズだ。

「仕様が固まっていなければ請けられま  
せん、という話はない」と西村CEO。そうした  
案件は漠然としたものに過ぎない。話を進め  
るのも決して容易なことではないだろう。実  
際、多くの時間を要したり最終的に成約に  
至らないことも少なくないようだ。西村CEO  
は「こうした対応が一助になってひとつの製  
品が完成することに楽しく取り組んでいます  
し、やりがいを感じています」と口にする。

設計部の西村俊諒氏は「依頼内容として  
は、筐体がありハードの回路があり、そこに  
組み込みエンジニアがファームウェアをつくる  
というパターンが多い」という。また、以前か  
ら使っていた装置を再構築する相談もある  
そうだ。「昔に依頼した会社が解散して更新  
しようにもできなくなった、昔使っていた部  
品がいまはなくなってしまった、といったソフ  
トのリバースエンジニアリングのような依頼  
もあります」と続ける。

### スピード感ある対応が ワンストップの利点

ワンストップで依頼する会社はコスト面に  
も開発期間においても大きな効果が得られ



▲回路・機構・ソフトの各設計技術と、組み立て・  
製造までを社内で完結できるワンストップ体制

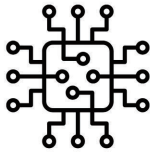
る。その点、西村CEOは「スピード感のある  
対応が刺さっていると思います」と話す。  
「ハード工程もソフト工程も社内に収まって  
いることでその場で解決できる。何かミスが  
あれば、外部の会社となら大変になりがちな  
やり取りもなく迅速に修正できますし、品質  
の維持にもつながります」

どんな業務にしても提出日、納品日という  
“締め切り”がつきまとうもの。とりわけ製品開  
発においては上流から下流と工程も多く、ス  
ケジュールどおりの進行は決して容易では  
ない。

そこはワンストップでも同様だが、どのよう  
に調整しているのだろうか。「最後は製造工

## 柱となる3つの設計領域

専門分野にとどまらないエンジニアが、システム全体を俯瞰しワンストップで開発



### 回路設計

- ・マイコン・FPGA周辺回路
- ・デジタル・アナログ回路
- ・ロジック回路(AND・OR回路等)
- ・PLD設計
- ・ネットワーク設計
- ・通信制御回路/電源回路設計



### 機構設計

- ・制御盤筐体設計
- ・樹脂ケース/アタッチメント等3D図面
- ・モーター駆動部の機構設計
- ・シミュレーター周辺筐体設計
- ・インフラ検査/補修工専用
- ・特殊機器及び特殊車両の設計開発



### ソフト設計

- ・制御系ファームウェア/アプリ開発
- ・PLC・生産ライン制御
- ・IoT/クラウドシステム
- ・Webアプリ開発
- ・通信制御/計測制御/装置制御

▲熟練を含む経験値の高いエンジニアが、スピード感ある対応で高品質の製品開発をおこなっている。産業機器を中心に、宇宙・航空関連機器、民生機器など実績ある開発分野は幅広い。



BBQ  
の様子



▲恒例となっている創立記念月(6月)のBBQ。ほかにもお花見や納会など催しを実施、社内コミュニケーションも盤石だ。

程が含まれるので、エンジニア主体となると製造にしわ寄せが行く。逆に製造が強くなりすぎると開発期間がなくなってしまうので、そのバランスを意識します。ひとつの部署に回路設計も機構設計も置きハードもソフトもこの製品をつくるひとつのグループとして、納品までが自分の役割として取り組むように体制をとっています」(西村CEO)

ソフトウェア開発を担当する西村俊諒氏は「それぞれがメインの業務を持っていないが他の分野でもできる人が対応するというケースもあります。私自身ソフト開発に限らず電気的な作業をおこなう場合もありますし、最終的になんでも屋になっている側面はあるかもしれません」と口にする。個々人のスキルの高さがうかがえる話だが、残業時間が月平均12.6時間と短めなものもその表れといえそうだ。

### 世代交代を意識し若手採用を視野に

現在48名が製品開発に勤むアトム技研の平均年齢は50歳。回路設計という熟練エンジニアが多く活躍している分野でもあるため平均的な年齢層ともいえるが、若い力は必須だ。「回路設計は職種としてカテゴリ自体がなくなっていく」と西村CEOは危機感を口にする。「ハードウェアのエンジニアは高齢化していますし、若手を採用して育て上げていくしか道はないのかなと感じて

います」と続ける。

西村俊諒氏は昨今の傾向について、「採用の情報サイトで回路設計の職種を募集しても、クリック数を見ると圧倒的に少ない。ソフト分野ならその何十倍もクリックがあるほどです」と苦笑する。

また、現状はOJTという社員教育も「求職者が不安のないように整えていきたい」という。「例えば、C言語はこういう研修がある、回路系にはOrCAD、機構系ならAUTO-CADの研修があります、と謳えるようにしたい。近い将来、技術伝承という課題と世代交代の流れが一気に迫ってきてしまうので、いまのうちから対策を講じていきたいと思っています。いまはそれに向けて準備中といったところです」(西村俊諒氏)

製品開発の企画面から関わるのは、多角的な視野の広さや良い結果につながるための判断力など、技術力とはまた異なる知識や知見が求められてくるもの。そうした視野の広さを備えることも社内で賄えているようだ。

西村CEOは「特にそうした教育を施してはいませんが、これまで扱ってきた分野の幅広さが活かされていると感じています。業界を横断するように経験値を増やしているので、例えば電子教具の開発に用いた要素を産業機器に適用するといったことも考えられます。必要によってお客さんの意図を

掘り下げるコミュニケーションを深めますが、社内で持ち得る要素を開発に活かしているところはあります」と話す。

### 未来を見据えた経営への取り組み

3月には近くの川沿いに連なる桜の下でのお花見、創立月である6月には記念BBQを催すなど、時期に応じた社内イベントも好評の様子。こうした催しは、社内コミュニケーションを円滑にするだけでなく、エンゲージメントを高める期待も持ててくる。

「弊社の財産」(西村CEO)とする行動指針七カ条の制定や、事業を通じて社会課題の解決と持続可能な経営に向けたマテリアリティ経営にも取り組んでいる。こうした活動は企業価値を向上するとともに、社会貢献への取り組みを重視する就活生への効果的なメッセージになり得るだろう。

JASAの会員とも「人材の確保や育成など、どのように対応されているのかうかがいたいと思っています。仕事面でもどういった技術をお持ちなのか非常に興味がありますし、こちらが提供できる技術をお伝えしたり交流できる機会をもって仕事に活かしていければありがたいと思います」と西村CEOは期待している。先々には、過去に手掛けた経験のある自社製品の開発や防衛関連など新たな分野へもチャレンジしたいとしており、未来を見据えてアップデートした姿が見られそうだ。

●「会社訪問」のコーナーでは、掲載を希望される会員企業を募集しています。お気軽にJASAまでお問い合わせください。